



SAMPLE

SAMPLE

N-BLOOD
NISMO Communication Magazine

N-BLOOD

NISMO Communication Magazine
2023 / October
No. **100**

nismo

Produced by Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd.

NISMO Communication Magazine **N-BLOOD** 2023 / OCTOBER No.100 Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd.

これまでも、これからも

N-BLOOD、創刊100号

日産/NISMOを応援してくださる皆様と歩みを進め、25年――

頂点を極め共に笑い、惜敗の悔しさに涙し

多くの人生と交わり、寄り添った四半世紀

参戦するカテゴリーは時代とともに変われども

その根底に流れる熱き血統は、変わることなく続いていく

SAMPLE Club nismo

皆さまとともに歩み、N-BLOODは創刊100号を迎えることができました。

これからもよろしくお願いいたします。



- 4 **SPECIAL INTERVIEW 1**
NMC 片桐隆夫CEO
『100』の次は『200』
- 8 **MEMBER'S MESSAGE**
Club NISMO会員の方々から
「熱きメッセージ」
- 10 **SPECIAL INTERVIEW 2**
NISMO二代目社長 安達二郎
ファンの皆さんあってこそそのレース
レースを愛するファンの想いを
大切にしていた
- 14 **SPECIAL TALK SESSION**
レジェンドより、愛を込めて
- 18 **SPECIAL TALK SESSION: PART 2**
日産ヘリテージコレクション所蔵
「忘れじの1台」
- 20 **2023 SUPER GT SERIES-GT500 CLASS**
第4戦富士を制した3号車が
ランキング首位をキープ
- 22 **2023 SUPER GT SERIES-GT300 CLASS**
サクセスウェイトのハンデを跳ね返し
56号車がタイトル戦線に生き残る
- 24 **2023 SUPER TAIKYU SERIES**
第5戦ST-3クラスで表彰台を独占
- 26 **FIA FORMULA E WORLD CHAMPIONSHIP**
ナトーがローマで2位表彰台
チームは7位でシーズン9を終える
- 28 **MOTORSPORTS**
PADDOCK TOPICS
- 30 **NISMO FESTIVAL at FUJI SPEEDWAY 2023**
会員限定参加型イベントが復活!!
- 34 **NISMO PRODUCTS**
NISMO パーツ最新情報
- 37 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**
SUNRICH JAPAN、NEGRONI
- 38 **PRESENT**
読者プレゼント



片桐 隆夫

Takao Katagiri

日産モータースポーツ & カスタマイズ株式会社
代表取締役社長兼最高経営責任者

時代を超えて幅広い世代に
支えていただいている

N-BLOOD 編集部（以下 NB）：100 号に到達した N-BLOOD と、Club NISMO 会員、日産／NISMO ファンの皆様との関わりを振り返って、どのようなお気持ちでしょうか？

片桐隆夫社長（以下片桐社長）：1998 年の創刊から、100 号まで実に 25 年をかけて歩んできました。長期にわたり、一貫してファンの皆様に支えていただき、コミュニケーションツールとしてお届けし続けることができたという点は、本当にありがたく、素晴らしいことだと思っています。読んでくださる方がいなければ続きませんからね。Club NISMO 会員の皆様、日産／NISMO ファンの方々あってのことです。

この 100 号を通過点として、もちろん今後も N-BLOOD の制作を続けていきたいと思っています。発足当時は CLUB LE MANS、現在は Club NISMO へと名前が変わりましたが、会員の方々は本当に熱心に応援してくださっています。25 年の間には、参戦するカテゴリーも、私たちの社屋も、会社名も変わりましたが、根底に流れる想



様々な情報をお届けし、ファンと NISMO のコミュニケーションツールとなっている N-BLOOD 自らもモータースポーツファンである片桐隆夫社長にこれまでの歴史を振り返ってもらい、今後の展望についても語ってもらった

SPECIAL INTERVIEW 1

N-BLOOD 創刊100号記念インタビュー

『100』の次は『200』

これからのN-BLOODにも、ぜひご期待ください



いは変わっていません。会員の方々は、NISMO が好調な時はもちろん、悪い時にも常に叱咤激励してくれますので、文字どおり同志のような存在だと思っています。

モータースポーツは競争が激しく、必死に取り組まないと良い成績を残すことはできません。大変なことも多いのですが、応援してくださる方々がいることは非常に心強く、我々のモチベーションにつながります。

会員のなかには私と同じくらいの年齢の方もいれば、最近入会してくださった若い方も大勢います。さらに親子二代でご入会されている方もいて、

**ファンの方々は常に叱咤激励してくれます
その言葉に励まされますし
もっと頑張らなければという気持ちになります**



お揃いのブルゾンを日産応援団にプレゼントした97年ル・マン。R390 GT1は完走1台にとどまったが、翌年に向けた重要なデータを得た。

時代を超えて幅広い世代に支えていただいていると実感します。

NB：Club NISMO の前身である CLUB LE MANS が発足した95年から数えると、組織としては30年近く続いていることになりますね。

片桐社長：実は個人的にも、95年のル・マン24時間レースには思入れがあるのです。当時、私はオランダの欧州日産でマーケティングの仕事を担当していたのですが、この時に通訳などのお手伝いをしました。NISMO がル・マン24時間レースに出場するので、現地でチームを支えるサポート体制が必要だろうと、欧州日産のモーター

スポーツ責任者がボランティアとして数名を集めたわけです。

実際にサーキットに行き、NISMO 初代社長の難波靖治さん、星野一義さんや近藤真彦さんともお話をさせていただきました。これが私にとって、モータースポーツチームの内側を見た、初めての経験でした。その時に、発足して間もない CLUB LE MANS のメンバーの方々がサーキットに来ていたのです。ですから、95年のル・マン24時間レースは、私にとってもある意味で“原点”と言っていい年だと思います。

NB：そのボランティアには自ら手を挙げられたのでしょうか？

片桐社長：もともと私がモータースポーツ好きであることを周囲のみんなが知っていたので、同僚から教えてもらい、手を挙げました。現地では3～4日ほど、ほとんど寝ずに働いていたのを覚えています。もっとも、通訳や雑用など、チームを支えると言えるほどのものではなかったかもしれませんが（笑）。

NB：ファンとのかかわりについて印象的なエピソードはありますか？

片桐社長：思い出されることは色々ありますが、97年のル・マン24時間に日産応援団の皆さんが来た時に、記念にということで、欧州日産の従業員で作っていたお揃いのブルゾンをプレゼントしました。渡したのは私の上司ですが、それに帯同し、応援団の皆さんにとっても喜んでいただいたことを良く覚えています。

2016年にNISMOの社長となってからも、ファンの皆様とはNISMO FESTIVAL やサーキットなど、色々な場面で一緒にさせていただいています。先ほど申し上げたとおり、好調な時はもちろん、本当に厳しい結果だったとしても『次がありますから頑張ってください』と、声をかけていただいたことが何度もありました。その言葉に励まされ、もっと頑張らなければいけないと気持ちを新たにすることが出来ます。特に日産/NISMO を応援してくださるファンは特に熱い方が多いので、ありがたいですね。



これまでの25年と これからの25年

NB：ファンとのコミュニケーションという観点では、NISMO FESTIVAL も重要なイベントだと思います。今年は12月3日の開催が発表されましたね。

片桐社長：毎年、このイベントを楽しみにくださっている Club NISMO 会員の方々も多く、続けていくことに意義があると考えています。開催する我々としても“次はもっと喜んでいただきたい”、“何か新しい工夫はできないだろうか”と、常に企画を考えています。

NISMO FESTIVAL には、NISMO の社長に就任する以前から何度も足を運んでいます。特徴はとにかく“盛りだくさん”ということですね。レースカーも、新しいものから懐かしいものまで揃っていますし、ほとんどの車両がレーシングスピードで走ることができる状態です。

初めて見た時には『展示だけではなく、走るの場所を見られるのか』と、感動しました。準備には時間も手間もかかりますし、これを続けていくのは大変ではありますが、Club NISMO 会員の方々に喜んでほしいという思いで開催しています。もちろん、これからも続けていきますし、今年のNISMO FESTIVAL もぜひ楽しみにしていただきたいですね。

NB：N-BLOOD の将来に向けた展望をお聞かせいただけますか。



片桐社長：日産/NISMO が続く限り、半永久的に続けていきます。『100』の次は『200』。また25年後ですね（笑）。これまでの25年間と同じように、モータースポーツのカテゴリーも時代に合わせて変化していくと思いますが、次の世代の方々が日産/NISMO のモータースポーツを支えてくださっているはずですよ。

そのためには、時流に合わせて変化や進化をしていくもの、そして伝統、この両方を大切にしていけることが必要かなと思います。“変化と進化”について、直近で言えば完全なEVで行われるフォーミュラEは、モータースポーツの中でも比較的新しいカテゴリーです。日産/NISMO としては挑戦するだけではなく、世界チャンピオンを獲らなければなりません。実際はまだ挑戦中というところではありますが、一日でも早くチャンピオンを獲得できるようになりたいです

し、日本での開催が予定されている24年には良い成績を出さなければならないと思っています。

また、22年4月には日産モータースポーツ & カスタマイズ (NMC) として、NISMO と AUTECH がひとつの会社になりました。それぞれに長い歴史と高い技術力を持っていますので、NMC ではこの両ブランドを結びつけて、相乗効果を発揮することを目指しています。

モータースポーツ活動で得たものを活かした NISMO ロードカーや NISMO スポーツパーツなど、NISMO ブランドをより身近に体感していたできるようにして、お客様の期待に応えられるようにしたいと思っています。

これからも NISMO ブランド、AUTECH ブランドで色々なクルマの楽しみ方をファンの皆様にお届けしたいと考えています。今後の展開にも、ぜひご期待ください。

